**玉井邦夫先生　講演会の報告**

11月３日、仙台市民会館で、ダウン症協会の代表理事である玉井邦夫先生の講演会を開催いたしました。保護者105名、施設職員、支援者、医療関係者６４名にご参加いただきました。

玉井先生は「成人期を見すえて～『ダウン症』を学び直す～」と題した講演の中で、ダウン症の基礎的な知識のほか、成人期のダウン症のある方々や家族、ダウン症を初めて対応する支援者などが直面している問題についてお話をしてくださいました。また、ご自身がダウン症のお子さんの子育てを通して体験されたエピソードやアドバイスもお話してくださいました。

　（以下、お話の概要を会報に載せたものから抜粋）

**ダウン症の基礎的な知識**

　・体格の問題…幼少からの食事管理が必要。身長と体重のバランスが大切

　・性格…「どのような経験をしてきたか」が成人期の性格の特性となる

ダウン症共通の性格特性はないことが最近わかってきた

　・併発症の問題…聴力、視力、心臓、血液疾患、頸椎

**健康づくりのために**

　・食事習慣

咀嚼→成人期から治すのは難しい　歯が生えたころからかむ練習が大切

　・便秘、歯科矯正、外反扁平足、睡眠時無呼吸などに注意

**早期療育の効果**

・物の名称や概念を増やすこと→効果的

　　文章理解、数概念、短期記憶→効果が低い

　・療育の効果は相乗性…運動発達を促すことで間接的に言語発達も促す

　　　　　　　　　　　　療育を日常の生活にも取り入れることが大切

「療育マニア」にならないよう注意

**成人期とつきあう**

　・生活の基本要素…時間・空間・人

　・すべての基本は健康管理…大きな病院の定期検査も大切だが、小さいころから診てもらい、本人が安心するドクターも必要

　・社会的・情緒的に「伸びる」…知的な好奇心や意欲などは、着実に伸びていく

**関わりの中での留意点**

　・ダウン症のある子どもたちの捉え方…全体的で分節化していないことが多い

　　言語発達…「どこへ」なのか、「何を」なのか…行為の目的や対象をしっかり意識させることが大切

・チャレンジの機会を豊かに与える→生活の意欲につながる

・レベルの合う仲間の存在は大切だが、一人でいる力と、みんなでいる力のバランスを保つことが重要

**ダウン症と薬**

　・現時点で「染色体構造異常」を治す薬は存在しない

　・抗うつ剤…よくわかる先生に相談することが大事

　・急激退行…環境の変化などによって生じてくる複合的な症候群と考えられている

**「自分よりこの子（我が子）と上手につき合える他人がいる」**

**「この子には自分より大切な人がいる」**

その日が来るまで、大いに子育てを楽しむ

講演の最後に、障害のある子どもを育てている保護者が、いつの日か受け入れなければならない2つの言葉を教えていただきました。

　お忙しい中、講演してくださった玉井先生に心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

****